



季刊あそーと 第三号

令和5年
5月発行

季刊あそーとも第3号です。創刊号を発行してから3ヶ月が経ちました。この3ヶ月で折れていた僕の左肩もやっとくっきました。肩が剥離骨折していたんですね。原因はシンプル、こけました。自転車での転倒です。雪の積もる坂道を自転車で降りている途中の出来事でした。自宅から出発して早々、ヤバっ、と思った瞬間にもうこけていました。雪道での自転車はダメです。怪我をした状況を説明すると、サスペンダーの整形外科の先生から「…大胆やね。」のお言葉。これは最大限に丁寧な表現をされた「お前アホか」です。小太りサスペンダー先生からの愛あるメッセージを受け取りました。「お前アホか」の丁寧語は「あなたはアホですか」ではなくて「大胆ですね」のようです。これからは雪道を自転車で走る大胆な行為はやめようと誓いながら、せっせとリハビリに通う毎日です。



あそーと事業紹介

門真西高校「はすねカフェ」がオープンしました！

門真西高校はすねカフェがオープンしました。あそーと3校目の校内居場所カフェです。終業のチャイムと同時に数名の1年生がゾロゾロと「ここ何なんー！???」と来てくれました。校内に張り巡らされたチラシを見て覗きにきてくれたようです。ドリンクを準備しながらあれやこれやとスタッフが喋ります。机にずらっと並べられたおやつとドリンクを見た生徒からの「ここめっちゃええやん!」も頂きました。そのままポツポツと増えていき、気が付けば20名程で賑わっていました。コーヒーを片手に友達と駄弁る、覗きにきていた先生を捕まえて一緒にUNOをする、友達とカードゲームをしてから急いで部活に向かう、1人でフラッとやって来てカウンター横でスタッフと喋る、と初回にしては上々のサードプレイス感でした。先生方と協力しながら「はすねカフェ」を根付かせていきたいところです。



学校内でサードプレイスを作ることの意味の1つに生徒にとってのアクセスのしやすさがあります。もちろんですが、物理的な距離が近い。教室によっては徒歩10秒です。そして、心理的な距離も(他のサードプレイスに比べると、たぶん)近い。校内カフェで使われている場所は生徒にとって知っている場所です。知らない大人がカウンターにいますが、その近くには知っている先生がいます。初めてのときは、友達と一緒にいくこともできます。カフェに入らなくても、外から覗くこともできます。この“知っている”要素と一緒に初めての参加ができる、というところが学校内でサードプレイスをするものの大きな意味です。どれだけサードプレイスがいい場所であっても、はじめましての暖簾のれんをくぐれなければ、それはただの場所です。居場所は参加ができなければ居場所にはなり得ません。居心地の良さそうな場所をただ作るだけではなく、アクセスを容易にする仕掛けや仕組みをきちんと作ることが高校生支援の第一歩になると思います。出会えなければ支援はできません。



ココアル事業紹介

3年ぶりに水曜レクを開催しました!

5月10日(水)に久しぶりの水曜レクを実施しました。

コロナウィルス感染症への対策として中止していましたので、およそ3年ぶりです。今回のテーマは【絵画】講師の先生をお招きし、参加者みんなで楽しみました。



両サイドを椅子に引っ掛けて浮かせた布に、筆、手、木の枝、などいろいろな素材を使って絵を描きます。集中しながら描く人、おしゃべりしながら描く人、それぞれのペースで取り組んでいました。途中からは着ている服までもがキャンパスです。お互いの服に描き合って大盛り上がりでした。他にも持参したトートバッグをキャンパスに絵を描く人も。それぞれの方が違うテイストの絵を1枚の布に描きこむことで、とても個性的な作品が完成しました。皆で仕上げた作品は今月の定期便に印刷しています!



福学地域連携プロジェクト

大阪経済大学×福祉事業所

大阪経済大学の学生さんが主催している福祉と大学の連携プロジェクト「第11回 くすのきエール・マルシェ」にてココアルのドリップバッグコーヒーを



販売して頂きました。「くすのきエール・マルシェ」は福祉と地域をつなげることを目的としたプロジェクトです。府内の福祉事業所15か所からクッキー、焼き菓子、コーヒー、雑貨など様々な商品が集まり、地域の方々の手へ渡って行きました。ドリップバッグをお買い上げ下さった皆様ありがとうございました。



高校内居場所カフェ事業 支援報告

卒業生へ食料品・日用品の提供を行いました。

あそとでは不定期ではありますが寄付等で頂いた物品を必要としている卒業生に届けています。物資の提供は、生活の足しにしてもらうことも目的ではありますが、それよりもつながりを継続することを目的としています。つながりとしての物資提供のいいところはリアクションが簡単なお知らせです。「ありがとうございます!」でリアクションは終了です。それ以上もそれ以下も必要としていません。半面、最近どう?元気にしてる?の連絡は安心につながるかもしれませんが、ときどき返事に困ります。如何様にも返事することができるやりとりは、体力が残っていない状況では難しいこともあります。すぐにできなかった返事は、そのあとも気まずさとなって残ってしまい、少しずつ溜まっていきます。気まずさが溜まっていると、困りごともしやすくなり相談ができなくなります。最近どう?のような双方向のやりとりと、物資提供のようなある程度一方通行のやりとりのバランスを取ることが、卒業生とのつながりを継続していくためには必要です。



ご不要になった本を寄付して下さる方は下記までご連絡下さい。お近くでしたらお引き取りにお伺いすることも可能です。詳しくは左 QR コード、またはココアル HP をご覧ください。
発行元: NPO 法人あそと TEL06-6932-2700 メール cocoaru@npo-assort.com

